

デジタルラジオの サービス内容について

(ワーキンググループ経過報告)

平成16年11月24日

デジタル時代のラジオ放送の将来像に関する懇談会
ワーキンググループ主査
近衛 正通 (ニッポン放送)

(1) 現行制度の前提

- 「デジタルラジオ」と「デジタルテレビ」のサービスは、明確に区別されている。(放送法第2条第2号の4、5)

(参考)「地上デジタル放送懇談会の報告書」

(平成10年10月)では、

地上デジタル放送については、

映像を中心に音声及びデータも提供できる

「地上デジタルテレビジョン放送」

音声を中心にデータも提供できる

「地上デジタル音声放送」

のふたつを実現することとされている。

(2) デジタルラジオのサービスについての考え方

- 「デジタルラジオ」は、高音質の音声を大きな特徴とするメディアであり、高画質の映像 + 音声を特徴とする「デジタルテレビ」と比べて、あくまで高音質の音声を主軸に置くべきではないか。
- いっぽうデジタルラジオにあっては、音声のほかにデータ放送サービスによる、新しい価値の創造が大いに期待できるだろう。従って音声を中心としながらも、文字、データ、簡易画像情報も音声と連動、あるいは独立してサービスをおこなうことによって、サービスの価値がもっと高められると考えられるのではないか。

(3) デジタル放送でも生かされる、ラジオの特性

- 現在のラジオの際立った特性のひとつに、簡便性、移動性がある。
- 仕事をしながら、歩きながら、車を運転しながら、パソコンをやりながら、枕元に置きながら、といった“ながら聴取”ができるのが、ラジオである。
- デジタルラジオがあくまで音声を中心としたサービスをおこなうのであれば、(技術的に、テレビとラジオが近似してくるとしても) 基本的にラジオならではの、この特性は変わらないのではないかと。

- 地上波ラジオは、地域に密着したメディアであり、ローカルメディアであるという特質は、デジタルラジオになっても変わらないのではないかと。
- リアルタイム性をもった情報を24時間送りつづけているのが、現在の地上波ラジオであり、これがデジタル化され、データなども多彩に活用することによって、さらにキメ細かな情報を送ることができるようになるだろう。
- また音声とデータを連動させることにより、デジタルラジオはいままでのラジオ以上に、リスナーにより高い利便性をもって、活発なアクションを起こさせることが可能となるのではないかと。

(4) デジタルラジオの端末イメージについて

- 現在のラジオは、移動性、携帯性に優れていると同時に、きわめてパーソナルなメディアでもある。もちろんキッチン・ラジオやラジオ付きミニコンポなど、固定型受信の可能性を否定するものではないが、デジタルラジオにあっても主な聴取環境は、携帯型ラジオ受信機、携帯電話端末、カーナビなどのモバイルにあると思われる。ラジオのパーソナルユース性を生かして、リスナーにも優しい、小回りのきく付加価値サービスを目指せば、相当高度で豊かなメディアとなることが期待できるのではないか。
- また受信機の普及に向けては、放送の送り手側だけでなく、メーカー等、受信機供給者のインセンティブが働くようなサービス・モデル、ビジネス・モデルも考慮するべきではないか。

(5) デジタルラジオの基本的サービスイメージ

- デジタルラジオの基本的なサービスイメージの柱として考えられるのは、「クリアーな高音質を生かした、多チャンネル放送」と
「クリアーな高音質 + データ放送を生かした、多彩なマルチメディア放送」ではないか。
- またデータ放送は必ずしも番組連動ということだけでなく、「独立型データ・サービス」においても、デジタルラジオは大きな可能性をもっているのではないか。

「クリアーな高音質を生かした、多チャンネル放送」に関する、ワーキンググループ(WG)の主な意見。

- 高音質の音声を中心にした多チャンネル放送は、デジタルラジオの柱のひとつ
- チャンネル数は「ラジオが変わった」と人々に認識される程度は必要
- 専門雑誌のようなセグメント化が必要
- 有料か、無料か、ひとつの者がどの程度のチャンネル編成権を有するのにより、「多チャンネル」の具体的なイメージが大きく異なってくる点に留意が必要
- 放送は、ダウンロードのトリガーとして重要

「クリアーな高音質+番組連動データ放送を生かした、多彩なマルチメディア放送」に関する、WGの主な意見。

- データ放送への期待は大きく、柔軟性を確保すべき
- 具体的モデルは基本的にはビジネスの問題だが、デジタルラジオとは何かを示すため、新規リスナー開拓の可能性がある、いくつかの主なアプリケーションをまとめることが必要
- 通信との連携を考えた場合、通信側の具体的なメリットが必要
- カーナビ地図のダウンロードなど、地域性を有する地上波によるデータ放送には、メリットがある
- サービスにあたっては、ストレスのない機能性が必要である

* 具体的なサービスイメージについては、本日の懇談会の御議論を踏まえ、多チャンネル放送、データ放送(番組連動型、独立型)それぞれについて、デジタルラジオの軸となるものを整理する予定。

WG内での、その他の意見

- モアチャンネルであるデジタルラジオにあっては、新規のリスナー開拓が不可欠であり、ノウハウのある事業者と連携をはかりつつ、サービスイメージ、ビジネスモデルを検討すべきである
- 現状の放送の「サイマル放送」もしくは一部の「サイマル放送」をおこなう可能性も残されているのではないか。もちろん現行番組をサイマル化するに当たっては、デジタルラジオならではの付加価値をもった放送を実現することが前提になる。
なおデジタルラジオは、現行のアナログラジオの聴取困難エリアの解消にも役立つことが期待できる。
- インターネットとの差別化を考えた場合、地域性の確保は重要
- デジタルラジオになれば、ラジオ事業の構造自体が変わってくる
- 多チャンネルにおけるジャンル別管理等を考えれば、プラットフォーム型の運営も検討課題

(6) 災害とラジオ

- 災害時には、携帯性、軽便性をもつラジオの機能が大きく生かされる。安否情報はもちろん、ライフラインの復旧情報など、生活に密着した、必要な情報を提供することのできるメディアとして、ラジオは過去にも、きわめて重要な役割を果たしてきた。デジタル化されることによってラジオは、必要なときに複数のサービスから、さらに細分化された生活情報を、特定のエリアに送ることもできるようになるだろう。また文字や地図などのデータを併用することによって、より細かな情報発信が可能になるのではないだろうか。
- 過日の新潟県中越地震にあっては、デジタルラジオ実用化試験放送にあっても、NHK - VICSの副音声2チャンネルを使って、5日間にわたり、臨機応変に地震情報と安否情報を放送した。

新潟県中越地震 / 副音声による多様な情報提供の実施例

放送の一例

NHK・VIC Sチャンネル

	主音声	副音声	副音声	副音声		
11:00	独自番組 128k		放送休止		NHK (見えるニュース他)	VIC S (道路交通情報)
12:00	多言語天気予報 日本語 32k	英語 32k	ハンガール 32k	中国語 32k		
13:00	独自番組 (多言語番組 = 省略) 128k		放送休止			
16:00	独自番組	新潟地震 安否情報	新潟地震 関連ニュース			
17:00	独自番組 64k		32k			
18:00	96k	32k	放送休止			

10月24日(日)

副音声による多様な情報提供実施

10月23日(土)発生の新潟県中越地震に関連し、NHK・VIC Sチャンネルでは副音声を活用して地震情報や安否情報を送出
送出パターン

- A: 主音声 + 副音声 + 副音声
- B: 主音声 + 副音声 (帯域は番組表参照)

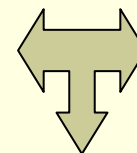
情報源

- (1) 地震情報 NHK第1
- (2) 安否情報 NHK-FM

実施日

10/23(第一報)、24、25、27、11/7(防災特番)

副音声やデータ放送の活用



多種・多彩な情報提供

非常・災害時のラジオの役割
デジタルラジオでさらにアップ

(7) 早期の本放送開始のための課題

- 現在のラジオを巡る諸情勢を考えれば、デジタルラジオについても早期に本放送を開始できる環境を整備することが望まれるが、そのための課題として、サービスイメージやビジネスモデルの検討以外に、周波数帯域の確保の問題がある。
- 特に、デジタルラジオはアナログテレビ放送が現在使用している帯域において実現することを想定しており、2011年に予定されているアナログテレビ放送の停波以前に本放送を開始する場合には、どのように混信等障害を生じることなく周波数帯域の確保を行うかが課題となる。
- このためDRPでは、技術的な観点から、自主的な検討をはじめたところである。

(8) デジタルラジオに関して、今後さらに議論を深めるべきポイント

デジタルラジオがモアチャンネルであり、新規リスナーの開拓、受信機普及といった課題があることを念頭に置きながら、

- 高音質多チャンネル、多セグメンテーション音声放送について、ビジネスモデルを含め、具体的に検討を進める。
- データ放送を含めたマルチメディア放送について、サービスの具体像を検討するとともに、それを実現するための課題について検討を進める。
- さらにデジタルラジオの可能性を発展させる観点から、早期本放送開始に向けたビジネスモデルのあり方について検討を進める。

(参考) 実務者ワーキンググループの開催状況

<第1回会合> 平成16年10月 8日(金)

- ・実務者WGの運営について
- ・実務者WGの進め方について
- ・検討課題例・ビジネスモデル整理イメージについて

<第2回会合> 平成16年10月21日(木)

- ・デジタルラジオの制度、チャンネルプランについて
- ・デジタルラジオのビジネスモデルについて
(「DRP」及び「(財)道路交通情報通信システムセンター」からプレゼン)

<第3回会合> 平成16年11月11日(木)

- ・データダウンロードサービスの具体的サービス・ビジネスモデルについて
(「懇談会：岩浪構成員」からプレゼン)
- ・前回WGで提示されたサービスモデル及び各構成員の意見整理について
- ・海外調査・現状報告

<第4回会合> 平成16年11月18日(木)

- ・前回、前々回に提示されたサービスモデル及び構成員の意見の整理
- ・「第2回懇談会」に向けて